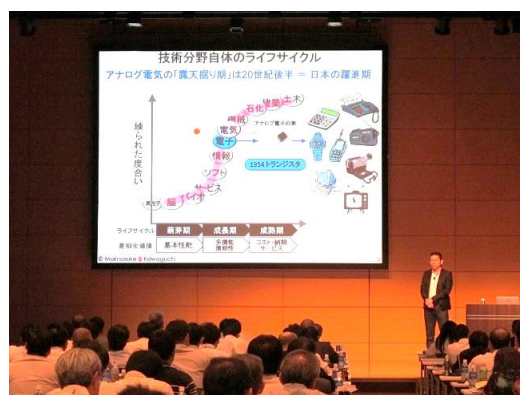


### 「鉄鋼業が打撃」「深夜が繁盛」、自動運転車の衝撃

三宅 常之＝日経エレクトロニクス

2014/09/12 16:58

2014年9月11～12日に開催の自動車関連セミナー「BEYOND2020 クルマが拓く未来～これから自動車関連ビジネスはこう変わる～」(主催:日経BP社、東京・品川)で、11日の最初に登壇した川口盛之助氏(盛之助 代表取締役社長、日経BP 未来研究所アドバイザー)は、自動運転車のインパクトを幾つか挙げた。



講演タイトルは「2020年のクルマ産業を読み解く、キーワードは仮想化とカスタマイズ化」だった(関連記事1「トヨタがJTBになる、未来の自動車産業とは」)。ここでは、自動車が「機械→電気→電子→情報→ソフト」と、進化していると述べた。さらに「サービス→バイオ→脳」へと発展する可能性も紹介した。

こうした進化の過程で直近に登場しそうなのが自動運転車だ。技術的には、ADAS やそれを支える「クルマの目」が実用レベルに来ている(関連情報)。川口氏は、自動車産業だけではなく、他産業にも大きなインパクトを与えるとして、例を挙げた。

#### Googleの自動運転車も柔らかい

その1つが、鉄鋼業が大ダメージを受ける、というものだ。電装化によって自動車がぶつからないとなれば鉄やアルミの頑丈なボディは不要になる。米 Google 社が2014年5月に発表した試作車が発泡スチロールなどの柔らかい材料を採用していることが、その先駆けとなるかもしれない。

別のインパクトが、深夜ビジネスが繁盛するというもの。深夜にタクシー料金が割り増しになるのは、運転手が人間で睡眠時間が必要になるためだ。自動運転車になれば、深夜に運転手に割増料金を支払う必要はない。むしろ稼働率が下がらないように、料金を引き下げるようになる。今より深夜の移動が安くなって、深夜ビジネスは繁盛するかもしれない。

さらに駐車風景も変わるとする。精密な運転技術を駆使して、わずかな隙間に手際よく車を停めることができる。駐車場の敷地に隙間なく自動車を埋めても、奥の自動車を出すことは難しくない。手前の自動車も自動的に動かしてスペースを空けられるようになるだろう。

川口氏は、自動車免許、自動車保険、運送業、タクシー業、住宅地、飲み屋、交通事故、救急医療、交通警察、交通違反など多様な分野に影響を及ぼすと述べた。